



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2018.3

No.408

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O



羽ってすごい！羽を集める楽しみ

近藤龍哉(上尾市)

羽のすごさを多方面から実感させてくれる本として、ソーア・ハンソン著『羽 進化が生みだした自然の奇跡』(白揚社)があります。冒頭で、一つのエピソードが紹介されています。この本の端緒となった、ハゲワシの一章の執筆中、著者は、気分転換にジョギングに出かけ、たまたま当のハゲワシに出会いました。それが飛び去った後のことです。「何か落ちて来るのが目に入った。それは風に舞い、クルクルと旋回すると、空中に漂い、さらに旋回しながら、私の足元に落ちた。美しい曲線を描いた褐色の長い風切羽だった」とあります。科学者を自任する著者が、「ハゲワシからの祝福」と感じ、「命令」と受け取って、羽の本を書く決心を固めたというのです。なんだか夢のような話ですね。

● 鳥見をする人なら誰でも、一度は羽を拾った経験があるのではないのでしょうか。それが美しい羽なら、宝物として大事に保存されているかもしれません。鳥の羽を拾うということには、それが偶然のことであっても、私を選んでやってきたという錯覚が伴いがちです。私もこの妖しい魅力にやられてしまった一人かもしれません。ただ私の中では、羽の収集の目的が、密かな個人の楽しみから、鳥を理解するための一つの有力な手段を得ることへと、次第に変わりつつあります。

● その転機となったのは、昨秋の「みぬま秋フェス 2017 in さぎ山」といえるかもしれません。当会は、親子ミニ探鳥会と、ブースを設けて「羽ってすごい！」と銘打った羽の展示をしました。

私もその企画に参加させていただき、拾ったり頂いたりして集めた鳥の羽(約70種)を、4冊のファイルにして展示しました。別に、仲間の協力のもと、カラスやキジバトやマガモなどの羽をたくさん用意し、子供さんたち



に羽の落下実験をしてもらいました。普段触れることのない野鳥です。ほんの一部とはいえその羽に

触れ、飛ぶ道具としての羽のすごさを感じて欲しい、という思いからでした。

これを思いついたのは、実は、このクルクル舞い落ちる羽のイメージを、自分で確かめてみて面白かったからです。大人がやっても興味が尽きません。展示よりもこちらの方が好評だったくらいです。

● 私は今、実物の羽を、探鳥会の中でうまく活用できないか考えています。眼前に出た鳥の羽を、一瞬にして手元に取り出して見せるというような芸当は、もちろんできるはずもありません。それで、手始めにマガモやコガモの出そうな探鳥会に、その翼鏡(次列風切のメタリックに光る羽)を準備し、説明の際に使って見ました。その美しさに、初めて見た方は感激してくれました。水面のカモの翼鏡が日に当たって光る美しさには及びませんが……。

たまたまビギナー向けの探鳥会で同じ試みをしたら、「この羽はどうやって手に入れたのですか。わしづかみにして引っこ抜いたので





すか」と、
思わぬ声
があがり
ました。
冗談交じ
りのツッ

コミのようにも聞こえましたが、私は内心ドキッとしました。マガモの翼鏡は、先輩からいただいたもの、コガモは、たまたま数日前に猛禽の食痕の中に見つけたものです。ですが、私には、「わしづかみにして引っこ抜いた」経験も、確かに何度かあったからです。それは、見つけた死骸からで、大抵は建物への激突死、まさに不慮の死といつてよいでしょう。気の弱い私には、気分よくできる技ではありません。なかなか抜けずにペンチを使ったこともあります。きっと無駄にはしないから成仏して、と心の中で念じてはいますが、心優しい人から見れば、むごい行為に映るでしょうね。心したいところです。

● 先の質問が、どうしたら鳥の羽を拾えるか、という意味なら、それは簡単、鳥のいるところ(生息域)で探すこととお答えします。たとえば、探鳥会に行った時など、視野を地面にまで拡げて探してみましよう。つまらないと思った羽でも、落ちていた羽を根こそぎ拾う意気込みで拾うことです。その中に宝物も隠れています。

● 私が、鳥見から帰って真っ先にすることは、フィールドノートの整理でも、撮った写真のチェックでもありません。そっちは後回しにして、まずは拾った羽の処理です。

まず、丁寧に水で洗います。別の鳥の羽が混在しないよう、袋毎に分けて洗います。しつこい汚れには、ほんの少しだけ台所用洗剤をつかいます。血が付いている場合もあるので、水かぬるま湯で。熱い温度では、血が固まって取れなくなるばかりか、羽を傷めてしまいます。よく羽虱やダニが問題になりますが、少しつけ置くのがよいかもしれません。私はこの方法だけで、防虫剤などを使わずに済んでいます。

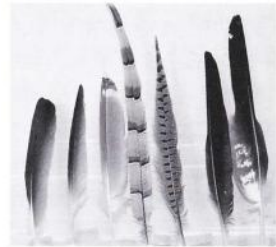
水につけると、羽はよれよれになり、縮んで、なんとも哀れな様相になりますが、ここ

で慌てる必要はありません。すすいだ後、脱水と乾燥は自然に任せています。新聞紙にキッチンペーパーを重ね、その上に、羽と羽が重ならないように並べて放置します。あまり風通しの良い処に置くと、羽は乾燥後とても軽くなるので要注意。ドライヤーを使えと書いている本もありますが、私はあくまで自然乾燥です。

乾いたあと、丁寧に整えます。私はこの作業がとても気に入っています。羽柄(根元)の方から、羽軸に沿って少しずつ先端の方へ指でつまんでいくのです。丁寧にほんの少し力を加えると、羽枝と羽枝がきれいに並んで繋がってくれます。これは羽枝から分かれている羽小枝(小羽枝)が、互いに鉤のような構造になっていて、まるでファスナーを閉めるように、自然にうまく繋がるのです。強い力が加わっても、遊びの部分が働いて、しなやかな変形によって堪えることができ、それ以上の力が加われば、繋がりが解けて破れたようになりますが、その仕組み故に簡単に復元が可能なのです。私の指の下でその復元が進行しているのを感じる瞬間が、なんとも言えません。

地面でみすぼらしく汚れていた羽が、見違えるようになります。形と模様がはっきりし、どこの羽か、どんな模様がわかるので、いくつ候補を絞って、羽図鑑に当たることができます。自分の知識を総動員し、推理し見当をつけていく。これがまた、とっても面白い。

ところがまた、たいへん難しく、すぐに解決することは稀で、時には大間違いの大失敗をすることも。こうして宿題となった羽は溜まる一方です。



(筆者註：一般的に「羽」は、鳥や昆虫の体の一部、「羽根」は、鳥や昆虫の体から抜けた羽や、羽を加工したものなどと区別されていますが、鳥類学ではすべて「羽」と表記します。)



野鳥情報

幸手市中川河川敷 (54390690、54390691)

◇10月27日、オナガ5羽、モズ7羽、ムクドリ6羽、ホオジロ1羽、ジョウビタキ♂1羽、♀1羽、ハクセキレイ2羽、カワウ1羽、アオサギ1羽、カワセミ2羽、コガモ14羽、カルガモ9羽、ノスリ1羽、チョウゲンボウ2羽など。11月22日、コガモ66羽、ジョウビタキ♂2羽、カルガモ2羽、バン1羽、オオバン1羽、アオサギ1羽、イカルチドリ3羽、カワウ2羽、トビ2羽、ツグミ1羽、セグロセキレイ1羽、ハクセキレイ4羽、モズ2羽、シジュウカラ7羽、カシラダカ2羽、ホオジロ3羽、カワラヒワ3羽など。12月17日、アオサギ2羽、カワウ2羽、コガモ9羽、カイツブリ2羽、イカルチドリ1羽、イソシギ1羽、バン1羽、ツグミ12羽、ヒヨドリ52羽、セグロセキレイ2羽、ハクセキレイ2羽、シジュウカラ2羽、モズ1羽、カワラヒワ21羽、ムクドリ8羽、キジバト7羽、スズメ19羽など(荒川貴之)。

白岡市白岡総合運動公園 ◇10月31日、マガモ♂3羽♀2羽、ヒドリガモ(エクリプス)10羽、コサギ2羽、ハクセキレイ6羽、セグロセキレイ1羽、モズ1羽、ハシボソガラスなど。11月5日、マガモ♂は換羽が進んだ個体が多かったが、コガモ、ヒドリガモ、ハシビロガモはエクリプスのままの個体が大半を占めた。他にダイサギ、コサギ、アオサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、クサシギ、ウグイス、コゲラ、シジュウカラなど。11月9日、マガモはつがい形成が済んだ個体が多くなった。ヒドリガモ♂も換羽が進んだ個体が目立った。ハシビロガモ♂はサブエクリプスのようだ。コガモ♂も換羽が進んだ個体が混じる。他にカルガモ、バン、ハクセキレイ、セグロセキレイ、オオタカ、シジュウカラ、ヒヨドリ、モズなど。11月16日、ヒドリガモ×アメリカヒドリの交雑種が1羽。マガモ、コガモ、ハ

シビロガモが凶鑑通りになってきた。他にカルガモ、ダイサギ、コサギ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、シジュウカラ、モズ、チョウゲンボウなど(長嶋宏之)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇10月31日、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロのカモ7種。他にカイツブリ、カンムリカイツブリ、オオバンなど。浮島にアオサギ、カワウ。樹林帯にシジュウカラ、メジロ、モズなど(長嶋宏之)。

川越市菅間緑地 ◇11月1日午後12時30分頃、緑地近くの交差点で信号待ち中に道端の灌木にカシラダカが飛んできた。鳴きながら餌を探していた。今季初認(大畑祐二)。

さいたま市北区 ◇11月1日、花の丘公園隣の森の鉄塔(高さ約40m)のてっぺんにタカのペア。飛翔した姿、色からオオタカと思われる。観察地点は全くの平地だが、辺りに人家少なく、森林、野草地、畑に囲まれ小型哺乳類、爬虫類、両生類が棲息している(熊倉才治)。

朝霞市上内間木 ◇11月5日、鴨川さくらさう水門付近でオオバン、コガモ、カンムリカイツブリ、ハクセキレイ。ヒヨドリの群れ10羽程が、小さな支流の上に垂れている枝より、代わる代わるダイビングで水浴び。しばし見とれる。武蔵野線沿い鉄塔付近で久しぶりにノスリ2羽旋回。秋ヶ瀬公園方向に遠のく(陶山和良)。

さいたま市南区 ◇11月5日、彩湖北端付近のホシハジロ60羽位の群れの中にヒドリガモ♂1羽♀1羽、マガモ♂1羽♀1羽、コガモ6羽、キンクロハジロ多数。少し離れた所にカンムリカイツブリ3羽。カモたちの季節を迎え、うれしくなる! 他にモズ、ヒヨドリ、ハクセキレイなど(陶山和良)。

さいたま市の鴨川 ◇11月7日、島根橋～堀の内橋でカルガモ38羽+、マガモ10羽、コガモ50羽+、ハシビロガモ1羽、ヒドリガモ36羽、オカヨシガモ3羽、ヨシガモ5羽、オオバン17羽+、バン、カイツブリ、カワウ、アオサギ、コサギ、ウグイス、モズ、ジョウビタキ、アオジ、シジュウカラなど

(大塚純子)。

熊谷市(旧大里町) 上小林 ◇11月9日午後12時10分、みどりの道脇の刈田にタゲリ10羽程の群れを確認。若鳥もいた。今季初認(大畑祐二)。

久喜市柴山枝郷 ◇11月10日午前6時50分、ニューナイスズメ150羽。残り少ない稲刈り田に近い農道上の電線にとまっていた(小貫正徳)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇11月2日、ブロック塀の上にジョウビタキ♀。しばらく楽しめそうだ。モズが昆虫をくわえて飛び去った。3羽のハシブトガラスが、白くなったナンキンハゼの実を食べていた。11月10日、畑の中の柿の実を採餌中のツグミ1羽。ここで今冬の初認。植木畑のツバキの木の天辺にシメ1羽。ここで今冬の初認。シジュウカラが枝に止まって、ナラの木のドングリを啄んでいた。かなり苦戦しているように見えた。11月24日、尾羽が全くないムクドリが頭上を飛んだ。丸っこくてバランスの悪い、可笑しい姿だった。屋敷林にカケス1羽。3羽のシジュウカラがナンキンハゼの実を啄んでいた。11月30日、7羽のムクドリがナンキンハゼの実を啄んでいた。ナンキンハゼはこの時期、脂分を多く含んでいて、野鳥達が大好きのような。ウグイスが3か所で笛鳴き。春が楽しみだ。12月4日、虹彩に橙色味がある小型のタカが水浴びしていた(長嶋宏之)。

吉見町八丁湖 ◇11月10日、ホシハジロ100羽+、八丁湖でこんなに多くのホシハジロを見るのは初めてでびっくり。他にマガモ、カルガモ、キンクロハジロ、オオバン、ヤマガラ、シジュウカラ、アオジ、ガビチョウ(声)など(阿部義裕)。

さいたま市桜区秋ヶ瀬 ◇11月13日、さくら草公園でアオバト1羽(海老原教子)。

蓮田市関山 N35. 9928 E139. 6557 ◇11月13日、元荒川の砂州でカルガモ5羽、コガモ7羽、カイツブリ1羽、オオバン4羽、バン1羽、イカルチドリ1羽、カワセミ1羽、キジバト2羽、ヒヨドリ2羽(長嶋宏之)。

蓮田市元荒川 (53397573) ◇11月24日、自

宅から黒浜沼への途中に元荒川があり、冬は必ず立ち寄るところ。ここで初めてカムリカイツブリの飛来を確認した。他にヒドリガモ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、ダイサギ、オオバン、イソシギなど(田中幸男)。

さいたま市大宮区大宮第二公園 (53397501)

◇夕方の愛犬との散歩で、コクマルガラスが高圧線にとまっているのに気付いた。塀入り前の一時休憩のようで、その数、約10羽。そのうち1羽が淡色型だった。初認：11月24日午後4時13分、遊水地上の高圧線。その後、たびたび目撃したが、見られない日もあった。12月11日、休憩場所が少し西側にずれているのに気付く。12月12日午後4時12分、梅林南側駐車場上の高圧線に飛来。写真から最大12羽まで数えられた。淡色型は、やはり1羽のみだった。午後4時18分、一斉に氷川神社の方向に飛び去った(浅見 徹)。

三橋総合公園駐車場付近 (53396497) ◇12

月4日、オオコノハズク1羽、午後10時30分頃、運転中の車にぶつかってきた。夜中だったので獣医には連れて行けなかった。くちばしの怪我と脳震とうを起していると思われた。今、箱に入れて、温かくしている。明日、鳥獣保護センターへ連れて行きます(後藤 章)。

吉見町吉見総合運動公園 ◇12月5日、5羽

のトビ柱、ハヤブサ、ノスリ、ハイタカ、コチョウゲンボウ。ここは、タカ類が多い。他にツグミ、カシラダカ等の冬鳥。モズ、カワラヒワ、ホオジロ、ヒバリ、セグロセキレイ、キジ等の留鳥(長嶋宏之)。

加須市加須はなさき公園 ◇12月7日、ヒド

リガモ65羽の群れ、コガモ、カルガモ、マガモ、アメリカヒドリ交雑種のカモ類。他にアオジ、ホオジロ、ツグミ、ジョウビタキ、シメ、コゲラ、ウグイス、カワセミ、オオバン等(長嶋宏之)。

表紙の写真

コミミズクとチョウゲンボウ

1月16日、茨城県坂東市にて。場所取りの攻防戦です。 田口勝利(さいたま市)



行事案内



カムリカイツブリ(編集部)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：中学生以下無料、会員 100 円、一般 200 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

悪天候の場合は中止、小雨決行です。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。間際に時刻表が変更される場合もあります。ご注意ください。

戸田市・彩湖探鳥会

期日：3月3日(土)

集合：午前9時10分、彩湖道満グリーンパーク中央駐車場。

交通：JR 埼京線 武蔵浦和駅東口から、②番バス乗り場 8:42 発下笹目行きで、「彩湖・道満グリーンパーク入口」下車。直前の交差点まで戻り左折して土手を越える。

担当：石塚(敬)、石塚(奏)、今村、小林(み)、野口
見どころ：今季最後となる今回、着飾りを終えたカムリカイツブリ、旅立ち始める鳥達を見送みましょう。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月3日(土)

集合：午前8時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り7:55発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、竹山、立岩、内藤、村上、茂木

見どころ：古墳公園から周辺の農村地帯を廻り、旧忍川沿いをオオジュリン等の小鳥類やクイナ類を探しながら公園に戻るコースです。猛禽も飛ぶと良いですね。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3月4日(日)

集合：午前9時、環境学習館前。

交通：JR宇都宮線 蓮田駅東口から朝日バス 8:50 発国立東埼玉病院行きで「新井団地」下車。バス停からご案内します。

担当：青木、内田、小林(み)、田中、長嶋、長野、菱沼(一)、菱沼(洋)、廣田、星野

見どころ：黒浜沼地区探鳥会は、沼では水鳥やクイナ、ヨシ原でベニマシコやアオジなど、畑ではタヒバリ類、上空ではタカ類などが期待できます。見通しも良くバードウォッチングには最適な探鳥地です。

ご注意：車で来られる方は、集合場所の環境学習館北側の“緑のトラスト保全第 11 号地 黒浜沼駐車場”（環境学習館まで徒歩 1 分）に駐車してください。環境学習館には駐車しないようお願いいたします。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月4日(日)

集合：午前9時30分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道 熊谷 8:52 発、または東武東上線 川越 8:18 発→小川町乗り継ぎで寄居下車

担当：茂木、井上、今村、鶴飼、堀口、松下
見どころ：寄居の町中から春の荒川沿いを鉢形城入口まで歩きます。冬鳥たちと春からの鳥たちがみなさまをお待ちしています。

シメやベニマシコはお馴染みですがオシドリにも会いたい。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：3月6日(火) 平日

集合：午前9時20分、森林公園南入口前広場。
交通：東武東上線 森林公園駅北口から熊谷駅南口行きバス9:00発で「滑川中学校」下車。ひとつ手前の「森林公園南口入口」は通過してください。下車後、歩道橋を渡り少し戻る。

費用：参加費以外に入園料410円(子供80円)、65歳以上210円(要・年齢確認できるもの)。
担当：中村(豊)、大坂、大畑、岡安、鈴木(秀)、内藤、藤掛、藤澤

見どころ：静かな平日のハイキング。ウグイスの初鳴き、ヤマガラやシジュウカラのさえずりにも耳を傾けましょう。山田大沼まで、片道約3kmのやや起伏のある道を歩きます。

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月10日(土)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時、見沼自然公園駐車場南側のベンチ付近。

担当：浅見(徹)、浅見(健)、柏瀬、河邊、工藤、野口、山田

見どころ：「見沼たんぼクリーン大作戦」に参加します。公園周辺で、身近な野鳥を観察しながらゴミ拾い。鳥好き・きれい好き、集まれ～！軍手、ゴミばさみ(お持ちの方)をご持参ください。ゴミ袋は用意します。



2016年3月12日 見沼たんぼクリーン大作戦

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道 大麻生駅前。

交通：秩父鉄道 熊谷9:09発、または寄居8:50発に乗車。

担当：茂木、新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、

飛田、中川、村上

見どころ：いよいよ春本番の中、鳥たちも張りきって顔を見せることでしょうか。忙しくエサを探している小鳥たち、上空には猛禽たちが出現すると思います。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月17日(土) 午後3時～4時ころ

会場：会事務局 108号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3月18日(日)

集合：午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

交通：JR北浦和東口に8:15までに下車し、正面信号を左側から渡り、50m先左手バスターミナルから8:23発東武バス「さいたま市立病院行」で、終点下車。駅に案内人の出迎えはありません。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、浅見(健)、浅見(徹)、楠見、小菅、小林(み)、須崎、新部、畠山、増田

見どころ：冬もいよいよ終わりが近づき、冬鳥達ともお別れ。ツグミやアオジも綺麗な姿になっています。三室地区で基本的な鳥達を一緒に探しませんか。初心者(ビギナー)の方にも最適です。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月21日(水・祝)

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線 北越谷駅東口①番バス乗り場から茨急バス・エローラ行き8:57発で「松伏高校前」下車。道路の反対側が駐車場。

担当：山部、進士、田邊、野村、橋口

見どころ：公園とその周辺の農耕地を歩きます。公園では森林性の小鳥と池の水鳥、農耕地では開けた土地の野鳥たちに注目します。初心者やお子様づれに最適。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月21日(水・祝)

集合：午前9時30分、東武日光駅前。※今回は、駅から徒歩で探鳥を始めます。「総合

会館前」は通りません。

交通：春日部7:36発東武スカイツリーライン
区間急行→南栗橋着07:53で東武日光線急
行に乗り換え08:00発→東武日光9:16着。

解散：午後2時ごろ、神橋付近で。

担当：浅見(徹)、植平、佐藤、佐野

見どころ：カワガラスやミソサザイを求めて、
大谷川～稲荷川に沿って歩きます。全行程
約8km、緩い上り下りがあります。道に雪
(氷)が残っていることがあります。足ご
しらえはしっかりと。昼食と断熱性の敷物
を持参してください。

羽生市・羽生水郷公園探鳥会

期日：3月22日(木) 平日

集合：午前9時、羽生水郷公園北駐車場。

交通：羽生市福祉バス 手子林・三田ヶ谷ル
ート(ムジナもん号)で東武伊勢崎線 羽生
駅東口8:04発、南羽生駅8:21発で「キャッ
セ羽生・水郷公園」下車。

共催：羽生水郷公園管理事務所

担当：相原(修)、相原(友)、新井、植平、竹
山、飛田、中川、茂木

見どころ：ヨシガモなどカモ類やオオジュリ
ン、ベニマシコなどの小鳥たちに別れを告
げます。夏鳥との出会いはもう少し先かな。
ご注意ください：帰りのバスは14:50発です。

秩父市・秩父ミュージックパーク探鳥会

期日：3月24日(土)

集合：午前9時10分、西武秩父駅前。集合
後、ミュージックパーク循環バス9:25発で「音
楽寺」下車。または午前9時40分、ミュ
ージックパーク内の百花園駐車場。

交通：秩父鉄道 熊谷7:41発→御花畑8:48着
→〈徒歩5分〉→西武秩父8:55着。または所
沢7:30発(西武池袋線快速急行)→西武秩
父8:47着。

解散：昼食後、午後1時半ごろに現地。西
武秩父駅行きのバスは14:24発(秩父駅
14:33着、西武秩父駅14:45着)。

担当：長野、青木、井上、佐野

見どころ：当会では唯一の秩父市内での探鳥
会です。昨年はアオゲラ、ヒガラ、ベニマ

シコ、ウソ、イカルなどを確認しました。
武甲山をバックにツバメやイワツバメの
飛翔する姿も期待しましょう。

ご注意：弁当を事前に持参してください。園
内に売店はありません。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月25日(日)

集合：午前9時、西武新宿線 狭山市駅西口。

交通：西武新宿線 本川越8:42発、所沢8:39
発に乗車。

解散：正午ごろ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、島崎、鈴木(秀)、高草木、
中村(祐)、藤掛、星、水谷、山口、山本

見どころ：入間川にコチドリが帰ってくる頃
です。元気にピオピオ、留鳥のイカルチド
リもピオピオ。よく似ているなあ。声、姿
じっくり観察してみよう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月25日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線 柳生駅前。
または午前8時30分、中央エントランス駐
車場。

交通：東武日光線 新越谷7:19→春日部7:36
→南栗橋7:54→柳生8:07着。またはJR宇都
宮線大宮7:13→栗橋7:38着で東武日光線
に乗り換え、柳生8:07着。

解散：正午ごろ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、入山、植平、佐藤、進士、田邊、
野口、山田

見どころ：ヨシ焼も終わり遊水地は春めく季
節。主役は何と言ってもキジとウグイス。
もしかするとベニマシコやオオジュリ
ンが残っていてくれるかも。

所沢市・狭山湖探鳥会

期日：3月31日(土)

集合：午前9時30分、西武狭山湖線 西武球
場前駅前。

担当：石光、小林(ま)、島崎、鈴木(秀)、長
谷部、水谷、持丸

見どころ：今冬はカモ類の少ないのが気にな
りました。繁殖地で数を増やして来冬多く
渡ってくることを期待しながら見送りま
しょう。満開の桜も楽しみながら…。



行事報告

7月15日(土) 川越市 伊佐沼 Beginner

参加: 30名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ コチドリ セイタカシギ コアジサシ カワセミ ハシボソガラス ツバメ セッカ ムクドリ スズメ カワラヒワ (17種) (番外: ドバト) 猛暑の中、予想を上回る参加者。「“ビギナー向け”という事で参加しましたー!」という声が多く、需要の高さを再認識。30羽を超すコアジサシがダイブする姿を堪能。下見では確認できなかった定番セイタカシギも姿を見せてくれたが、一番の盛り上りは、古代蓮が咲き乱れる中、場所を変えてのポージング?のカワセミだった。(石塚敬二郎)

7月15日(土) 川越市 伊佐沼 Young

参加: 57名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ チュウサギ コサギ コチドリ セイタカシギ イソシギ コアジサシ カワセミ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ メジロ セッカ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ (24種) 梅雨明け前だったが、うだるほどの暑さ。伊佐沼には30羽以上のコアジサシが無い、時には我々の真上を飛んでくれた。今シーズン飛来していなかったセイタカシギが、探鳥会前日に伊佐沼に来てくれた。沼北部の栈橋付近では、少し大きくなったカイツブリのヒナがピピピと親に甘えており、みんなを和ませてくれた。(廣田純平)

7月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、松村禎夫、三ツ矢正安

7月16日(日) さいたま市 三室地区

参加: 34名 天気: 晴

キジバト カワウ カワセミ コゲラ ハシボソ

ガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ホオジロ (16種) (番外: ドバト) この季節の楽しみは、親子連れが見られること。今回もムクドリ、スズメの家族の群れが見られた。図体は大きいのに、まだ自力で食べ物を探せないらしく、枝に止まっておねだりをする幼鳥。その口に何かつつこむ親ムクドリ。ちょこちょこ歩きまわる幼鳥に、つき添うようにして行動する親スズメ。身近な鳥たちのいとおしい姿をみんなで観察した。暑さを避けて代用水浴いの道を往復したが、最後にちょっとだけ芝川をのぞいたら、カワセミ登場! (小林みどり)

7月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 29名 天気: 曇後雨

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ササゴイ アオサギ ダイサギ ヒメアマツバメ イカルチドリ カワセミ コゲラ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ホオジロ (24種) (番外: ドバト、ガビチョウ) 幸い曇りのち雨と天気恵まれた。変ではない。7月の入間川は、これが正解。晴れれば地獄の暑さ。鳥は少なめだが、今年もササゴイが繁殖して、少し離れた所から雛の様子を見せてもらった。親が来ている巣があればすぐにササゴイとわかるのだが、雛だけだとササゴイ感が全くない。何人もの方に、「あれ何ですか?」と聞かれた。(長谷部謙二)

7月29~30日(土~日) 長野県 乗鞍・上高地

参加: 25名 天気: 29=霧、30=曇

乗鞍: ライチョウ アマツバメ イワツバメ ウグイス メボソムシクイ コマドリ ルリビタキ イワヒバリ カヤクグリ (9種) 上高地: オンドリ マガモ カルガモ キジバト アオサギ アマツバメ イカルチドリ ハチクマ コゲラ ハヤブサ ハシボソガラス キクイタダキ コガラ ヒガラ シジュウカラ イワツバメ ウグイス メボソムシクイ ゴジュウカラ ミソサザイ コマドリ コルリ コサメビタキ キセキレイ セグロセキレイ ホオジロ アオジ クロジ (28種) 1日目は霧の乗鞍。お目当てのライチョウは、大黒岳でみ、お花畑で母と子。それにコマク

サのピンクの絨毯が見事だった。上高地への到着が遅れて大正池を見られず残念。2日目の上高地の早朝は小雨で、宿の周辺を回った。虹の掛かった空をアマツバメの大群が飛んだ。宿の自慢の朝食後に明神に向けて出発。途中、半径25mの範囲にコマドリが3個体囀っていて、全員興奮。姿もじっくり見られた。梓川沿いでは、ハヤブサがモミアゲのわかる位近くを飛んだ。天気が悪くて穂高連峰が見られず残念だった。(入山 博)

8月6日(日) 北本市 石戸宿

参加: 48名 天気: 晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト ゴイサギ アオサギ カワセミ コゲラ アカゲラ ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ オオヨシキリ キビタキ カワラヒワ ホオジロ(18種)(番外:ガビチョウ) 九州の南を移動中の台風5号の影響か、非常に暑かった。カワセミは、カワセミの池と高尾の池で見られた。梢で囀るホオジロも全員が見られた。後ろの人達はキジを見て、アカゲラやキビタキの声を聞いたとのこと。オオヨシキリは啼かなくなっていたが、高尾の池のヨシに止まる姿を確認。キノコのキノガサタケのレースのドレス姿、ハエドクソウやアキノキリンソウの花も見た。(吉原俊雄)

8月12日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 43名 天気: 曇

カルガモ スズガモ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ チュウサギ ダイゼン コチドリ メダイチドリ オオメダイチドリ オオソリハシシギ アオアシシギ キアシシギ イソシギ トウネン ウミネコ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ オオヨシキリ ムクドリ スズメ カワラヒワ(27種)(番外:ドバト) 北東風、青潮。それでも潮が引いてくるとシギ・チドリがやってきた。メダイチドリの群れの中からオオメダイチドリを探す楽しみに恵まれた。(杉本秀樹)

8月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 22名 天気: 曇

コジュケイ キジバト カワウ ダイサギ コゲラ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ ウグイス メジロ ス

ズメ ホオジロ(14種)(番外:ガビチョウ) 曇ってしのぎやすい朝。でも、鳥たちにはあまり期待していない。真夏の探鳥会の主役はやっぱり昆虫でしょ。チョウを見たり、セミを見たり、トンボを見たり。ふと見ると、目のくりっとした茶色いノウサギが道をゆっくり横切っていく。何人ぐらいが見られたかな?(榎本秀和)

8月19日(土) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加: 38名 天気: 曇

キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ ダイゼン メダイチドリ オオメダイチドリ オオソリハシシギ アオアシシギ キアシシギ キョウジョシギ オバシギ ミユビシギ ユリカモメ ウミネコ セグロカモメ オオセグロカモメ ツバメ ヒヨドリ スズメ ハクセキレイ(22種)(番外:ドバト) 中潮だったが、かなり沖の方まで潮が引いて鳥が遠く、シギ・チドリ類も少なかった。若潮の影響でアカエイ、小魚、クラゲ等の死骸が散乱し、それ目当てのウミネコが多かった。東側堤防の上で観察したが、間近にオバシギの幼鳥がいたのが幸いした。(菱沼一充)

8月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランテア: 8名

宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、三ッ矢正安

8月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 33名 天気: 曇時々晴

カルガモ キジバト カワウ アオサギ オオタカ カワセミ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ メジロ ムクドリ スズメ ハクセキレイ ホオジロ(17種) 真夏の心配ごと。その1:暑さ。その2:鳥がいるか。曇りがちで、問題はその2だ。出現種数が多ければいい、というものではないんだけど……。歩いてみると、あっ、ホオジロ出現、よしっ! カルガモ出現、よしっ! おお、カワセミもいた! おいおい、オオタカまで出てくれたよ! やったね、ふたケタだ! (小林みどり)

9月10日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 31名 天気: 晴

キジ キジバト アオサギ ミサゴ トビ コゲ

ラ アカゲラ モズ ハシボソガラス ハシブト
ガラス シジュウカラ ヒバリ ショウドウトツバ
メ ツバメ イワツバメ ヒヨドリ エナガ メ
ジロ セッカ スズメ ハクセキレイ セグロセ
キレイ ホオジロ (23種) (番外: ドバト、ガビチ
ョウ) 土手に上がると川方向の鉄塔付近をミサ
ゴ2羽が帆翔していた。ゴルフ場側の草地の中で
キジが動き、ゴルフ場横に行くとモズが高鳴き、
キョッキョという声が出てアカゲラ。森を抜けて
開けたところで見上げるとミサゴ3羽とトビが帆
翔。一度に3羽のミサゴをじっくり見ることがで
きた。草地からヒバリが飛び出し、森の入口では、
ツバメ類が飛び、エナガが現れた。(千島康幸)

9月16日(土) 『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア: 10名

相原修一、宇野澤晃、榎本秀和、海老原教子、海
老原美夫、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤
掛保司、松村禎夫

9月17日(日) さいたま市 三室地区

雨のため中止。(浅見 徹)

9月17日(日) 坂戸市 高麗川

雨のため中止。(鈴木秀治)

9月18日(月、祝) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 23名

相原修一、浅見徹、有馬祐子、石井智、今村富士
子、海老原教子、海老原美夫、大塚純子、小島實、
小林みどり、佐久間博文、柴田絵里、鈴木紀雄、
鈴木博美、中川敏子、中橋由美子、藤田敏恵、山
下紀、山下康子、湯本貴光、吉原早苗、吉原俊雄、
若杉吾一

9月18日(月、祝) タカの渡り調査・中間平

ボランティア: 19名

青山紘一、青山美奈子、青山洋介、鶴飼喜雄、小
出博、小林祐太郎、近藤龍哉、桜井正純、田島利
夫、田村享子、千島康幸、富田道夫、富田めぐみ、
中村弘、中村博文、平田政司、松井昭吾、吉川幸
子、若田部吉一

9月23日(土、祝) 松伏町 松伏記念公園

参加: 38名 天気: 曇

キジ カルガモ キジバト カワウ アマサギ
ダイサギ チュウサギ クサシギ カワセミ チ
ョウゲンボウ ハヤブサ モズ ハシボソガラス
ハシブトガラス ツバメ ヒヨドリ セッカ ム
クドリ ノビタキ スズメ ハクセキレイ カワ
ラヒワ (22種) (番外: ドバト) 地元公民館から
の参加者を交えて元気に出発したが、公園内の鳥
はさっぱり。池ではマガモかアヒルか紛らわしい
鳥が1羽。白熱気味の論争はカワセミの出現であ
っさり終結。農耕地に出ると、稲刈りする人も無
く、目玉のサギ類がたった3種。それでもアマサ
ギが見られたのが救いとなった。その後、猛禽類
2種の狩猟姿、間近で観察できたノビタキの愛ら
しさを堪能し、まだ居残っているツバメに別れを
つけることもできて、ついには時間をオーバーす
るほどの楽しい探鳥会だった。(田邊八州雄)

9月23~24日(土、日) 長野県 白樺峠

最少催行人員に達せず中止。(入山 博)

9月24日(日) 狭山市 入間川

参加: 30名 天気: 晴

カルガモ カイツブリ キジバト カワウ ヒメ
アマツバメ イカルチドリ トビ カワセミ コ
ゲラ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブト
ガラス ヤマガラ シジュウカラ ツバメ ヒヨ
ドリ ウグイス セッカ ムクドリ イソヒヨド
リ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カ
ワラヒワ (25種) (番外: ドバト) 9月の探鳥会
では3年続けて渡り途中の鳥が見られている。今
年も何か出てくれないかなと期待したが、今回は
空振り。その代わりに、イソヒヨドリのオス、メス
両方が見られた。まだ3月、5月、7月には記録
していないが、来年春に囀りが聞けないか今から
楽しみだ。(長谷部謙二)

9月24日(日) タカの渡り調査・天覧山

ボランティア: 29名

浅見徹、磯崎智子、内田耕平、大井智弘、大井は
るえ、小貫正徳、小貫とみ子、近藤龍哉、佐久間
博文、佐野弘太郎、庄司泰之、庄司恭大、鈴木秀
治、中野智美、中村京美、中村裕行、中村大希、
中村心結、中村翔、永井泰二、西久保勝己、西久
保秀子、野口修、長谷部登美子、古谷和世、藪塚
郁美、山岡貞夫、山田直子、山田晴風

連絡帳

● 訃報

鈴木忠雄元支部長(熊谷市)＝写真＝が、昨年の早い時期に逝去されていたことを、最近になってご連絡いただきました。



当会設立メンバーに加わり、胃腸医院院長としての仕事の傍ら、1989年から1992年までの3年間、2代目支部長としてご活躍いただき、その後も長年ご尽力をいただきました。90歳を超えるご高齢でした。ご冥福をお祈り申し上げます。

● 会員の普及活動

1月16日(火)上尾市丸山公園で開催された上尾自然学習館学習指導員研修会で、野外実習と室内研修を小林みどりが指導しました。

● 芝川第一調節池に関する意見交換会

1月18日(木)現地に、提案者等2名、埼玉県土整備事務所芝川改修事業担当者2名、(公財)埼玉県生態系保護協会3名、当会から小林みどりと野口修、計9名が集まり、「水深が深くハクチョウが採餌に苦勞しているの、飛来時期だけでも水位を下げしてほしい」との提案に対し、管理側:「オギの穂の飛散に周辺住民から苦情が多く、水位を高くして繁茂を防いでいる」、小林:「調節池はハクチョウの増やす必要があるのか疑問だが、そうしたいなら、近くの農耕地を冬水田んぼにするなど根本的な対策が必要」などの意見を交換しました。

● ごめんなさいコーナー

1, 前号行事案内欄の9ページ「2月17日

埼玉 Young 探鳥会 さいたま市大宮公園」の記事に、「集合時間午前9時」が抜けていました。当会ホームページと、事務局留守番電話メッセージ等で対応しました。

2, 前号12ページ本欄、玉井正晴元幹事逝去の日付け「12月23日(土)」は、「12月24日(日)」の誤りでした。

● 会員数は

2月1日現在1,646人です。

活動と予定

● 1月の活動

1月13日(土) 2月号校正(海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、佐久間博文、志村佐治、長嶋宏之)。

1月21日(日) 役員会(司会:小林みどり、各部の報告・平成30年度県鳥獣保護管理員3名推薦の件・その他)

1月22日(月) 『野鳥』誌を購読しない会員向け、『しらこぼと』2月号を郵便局から発送(海老原美夫)。

● 3月の予定

3月3日(土) 編集部会。普及部会。

3月10日(土) 4月号校正(午後4時から)。

3月17日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

3月18日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

1羽のタカに、数羽のカラスがちょっかいを出している。こういう時、タカはほとんど反撃しない。しかし、ある時、オオタカがヒナに与えていた獲物は明らかにカラスだった。無駄な争いはしない。自分や家族の命を繋ぐために爪を立てる。「能ある鷹は爪をかくす」昔から言われていることだが、人間はあいかわらず過去に学ぶことをしない。

(泥蜥畑)

しらこぼと 2018年3月号(第408号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
 発行人 海老原美夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉(〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号) TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
 郵便振替 00190-3-121130 http://www.wbsj-saitama.org 事務局 office@wbsj-saitama.org
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 編集部への野鳥情報 toridayori@hotmail.com
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
 (公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社